

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1971000128		
法人名	社会福祉法人 ぎんが福祉会		
事業所名	グループホーム 雀のお宿		
所在地	山梨県甲斐市下今井1730		
自己評価作成日	平成21年11月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-yamanashi.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	12月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「その人なりの生活に寄り添い 安心した尊厳ある暮らしを 保障する」を理念に掲げ、家庭的な雰囲気の中、一人ひとりの生活スタイルを大事にしています。もともと旧家で、広い敷地を利用しての畑仕事に精を出し、収穫された作物や季節の果樹を料理で提供しています。また、障害者グループホームと併設していますので、誕生会では障害者が料理を作ったり、普段から交流し利用者同士がお互いに刺激となる良い関係を保っています。

施設内は木造で落ち着いた感じがある。ケアは管理者と職員が和らかな雰囲気の中で家族のように接し、利用者が職員と会話を楽しんでいる。地域との付き合いが長く、運営推進会議には、婦人クラブも参加し、意見交換している。近くの商店や美容院を利用していることもあり、作物のやり取り、行事の参加、地域住民の訪問など馴染みの付き合いが出来ている。他のぎんが福祉会やぎんが工房などの系列事業所と協力して、行事に参加している。グループホーム入口の門前には「トイレも自由にお使い下さい。」「お茶飲みにお立ち寄り下さい。」「AEDが設置してあります。」と掲示し、地域の方に気軽に利用して頂けるように努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人なりの生活に寄り添い 安心した尊厳のある暮らしを保障する」という理念に基づきサービスを実践し、また、共有が図れるよう理念を職員会議の次第に印刷している。	利用者一人ひとりの体調、身体状況に合わせ理念に基づいたサービスを行い、職員全員で作った理念を事務所、廊下、居間などに掲示し共有を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会や地域行事への参加を積極的に行ったり、地域のこども110番に登録しており、子供たちが気軽に立ち寄れるよう掲示している。また、小学校の運動会へ招待されたり、「雀のお宿秋祭り」には多くの地域住民が参加し交流を図っている。	自治会に加入し回覧板で行事の確認をして、常会、清掃活動など日常の行事に積極的に参加している。保育園や老人クラブの訪問があったり、AEDを設置し研修を行い地域に役立つ活動をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で現在の利用者の状況を説明し、地域への理解を図ったり、子供110番に登録し、子供たちが利用者と直接触れ合うことも実践している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	約2か月に1回ペースで開催している。委員は利用者、家族、地域民生委員、老人クラブ、婦人会、行政、介護員、管理者で構成しており幅広い意見交換を行っている。	多くの方に参加していただき、業務報告や行事計画等について意見を頂いている。特に地域の女性から活発な意見を頂き、参考になっている。家族に関しては持ち回りで代表者が参加している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加してもらっている他、不定期だが市役所へ訪問し、現状の報告や「雀のお宿通信」を届けている。	事業所の考え方や実体を理解していただく為に会報、議事録等を届け直接担当者と会話する事により、情報を共有し連携を深めている。	市町村担当者により理解や支援の仕方が違いますが、事業所の実情や取り組み方を良く知ってもらう為、強い人間関係が作れるよう時間をかけて働きかけることを期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の弊害を職員間で共有したり、目に見える拘束以外の言葉の拘束にも注意している。天気の良い日は玄関や窓を日常的に開放したり、防犯上最低限の施錠に留めている。離設がないよう所在の確認を職員間で行うとともに、センサーを設置し事故防止にも努めている。	年1回の法人内の研修に参加し、どのような事が身体拘束なのか正しく理解、学習し日々実践のなかで、職員同士共有しケアに努めている。	夜間防犯上の施錠はともかく、日中に於いては、出来るだけ利用者の心理を汲み取り、オープンに出来るような工夫や取り組みに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内で虐待についての研修会を開催している。利用者自らが、自己放棄になる自己虐待についても注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要時に司法書士と相談の上、成年後見人制度利用実践しているが、職員間で学ぶ機会は少ない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に沿って説明を行い同意を得ているが、一度に全てのことを理解するのは、利用者や家族も大変なので、疑問に思ったことはいつでも相談して欲しい旨を説明しているとともに、話しやすい環境作りにも努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者、家族に参加してもらい意見を出してもらっている。利用者の家族には何でも気付いたことを意見箱に投函して欲しい旨を説明している。また、毎年1回意見や要望のアンケートを実施している。	年1回の家族会や春、秋に行う草取りに参加して頂いたとき、家族の意見を伺うように努めている。利用者からは日々の会話の中から意見を引き出すよう努めている。	言うことをためらう家族もいるので、利用者、家族からの率直な意見を引き出す雰囲気づくりや、配慮が必要であり、出された意見等をサービスの質の確保、向上につなげていく事に期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議では、なるべく全員に発言してもらえるよう投げかけている。職員会議は毎月1回行い、ほぼ全職員が参加している。	年1回のアンケートを実施し、希望があれば管理者と面談し意見や要望を聞いている。日常のケア等の問題点や意見は、連絡帳にて申し送りをし、困難な事は会議にて検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	実績や勤務状況、資格取得者はパート契約から正規採用する実績がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症実践者研修は毎年1名受講している。職員が興味を持った研修には参加してもらうよう心掛けている他、必要と思う研修には参加を促している。研修参加後は、研修記録を提出している。介護支援専門員は山梨県介護支援専門員協会研修委員会委員長を務め、介護支援専門員の資質向上を図っている。介護福祉士国家試験を受験する際には、有資格者が実技指導を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山梨県グループホーム協会に入会しており、研修会への参加を通し、交流を図っている。同一市内や近隣市町村のグループホームとは、お祭りへの参加案内を送付している。その他、電話連絡や訪問で近況を伝え合ったりしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境が変わることの不安や要望に傾聴し寄り添う事で、不安を解消し安心して生活が送ることが出来るよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	導入の段階では、不安なことわからないことも多いので、何でも相談してもらうよう声を掛けるとともに、質問しやすい環境作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護サービスにとらわれず、多様なサービス利用の可能性や方向性を提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事やお茶を一緒にとったり、畑仕事や家事については教えてもらいながら行ったり、お互いに尊重しあえる環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月利用者の近況を郵送して報告している。面会は基本的に365日どの時間も自由で、来所しやすい雰囲気作りに務めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人からの手紙の返信を書く支援や自宅周辺へのドライブをすることもある。	美容院等に行ったり、葬儀に参列したり、今年は年賀状を計画したり、地域の方が訪問に来たりして、交流が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の関係性を配慮し、座席を決めている。話に加われない場面が見られたときは、職員が声を掛け、話に加わるきっかけ作りを行っている。自分より体が不自由な利用者のお手伝いや言葉が少ない利用者への声掛けを、利用者が積極的にしてくれている場面がよくある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時等サービス終了後も状態や方向性の相談を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉での思いや意向の確認他、体の様子や本人の安心した表情を観察したり、暮らししてきた背景を考慮しながら把握に努めている。	アセスメントシートと日々の声掛けと行動、家族との会話の中から把握し、カンファレンスで話し合っている。困難な時は、利用者寄り添い、本人本位で行動する事を支援している。	利用者や家族の情報を収集し、職員が共有できるよう、センター方式を活用していくことを期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、必要時アセスメントを行い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所時のアセスメントや日々の状態、過ごし方を観察しながら現状の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、家族の意向を第一に優先するとともに、専門的見地からの提案を行い現状に即した本人のための計画作成に努めている。	カンファレンスには、計画担当者・職員・管理者がモニタリングや日々の家族の意見、利用者の思いをしっかりと聞き、計画作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に記入し、日々の生活の変化を申し送りしている。申し送りは全職員が確認し、サインをすることになっている。気になったことはカンファレンスノートに記載してもらい、次回のケアカンファレンスの検討事項にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護サービスにとらわれず、多様なサービス利用の可能性や方向性を提案している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護サービスにとらわれず地域資源等、多様なサービス利用の可能性や方向性を提案している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連携医療機関が主な受診場所となるが、必要時には、昔からのかかりつけ医と連絡をとり受診を行っている。	入居時、かかりつけ医の希望を聞き、ない場合は契約医を紹介している。付き添いは、医師に状況説明するため、家族の了解を得ながら職員が行い、受診後、家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康チェックを毎日行い、異常があるときは併設デイサービスの看護師や連携医療機関へ連絡している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に介護サマリーを同封するほか、面会に訪れた際、状態や今後について話をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際に話し合いの機会を持つほか、家族とも連絡を取りながら、希望を優先するよう務めている。ターミナルケアも実践したいが医療行為が必要な場合は、入院することが多く、現状では看取りまで行える場合は少ない。	利用者、家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携をとり、医療行為が必要なときを除いて事業所が対応できる最大のケアに努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が消防署の行う救命訓練を受講し、毎年再確認のための研修会を開催している。AEDを設置し使用方法についての説明を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を実施している。地域の防災訓練にも参加している。運営推進会議で現在の利用状況を報告し、地域の方に現状を知ってもらうよう努めている。	火災通報装置の設置や災害時役割分担表が事務所に貼られ、夜間に於いても職員が対応できる体制作りがなされている。消防署の指導を受け、カーテン等は不燃性の物を使用している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの個性や尊厳を大事にし、言葉掛けに注意している。排泄には職員間だけでしかわからないよう、言葉を工夫している。入浴は基本的に同性が介助している。	人生の先輩として敬意を払い、馴れ合いの中で、利用者の尊厳を損ねないよう言葉かけや対応に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が希望を出しやすい言葉掛けや環境作りに配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活暦や現在の状態を考慮し、各自が自由に過ごせるよう努めている。食事時間は定時があるが、本人のその日のペースにあわせずらしたりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	昔からの趣味や好きな色、デザインのことを家族に用意してもらったり、職員が準備している。普段着から寝巻きへの着替えは全員が行えるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の得て不得手を把握し、手伝いを行ってもらっている。職員も一緒に食べ食事が楽しく出来るよう配慮している。	配食サービスを利用しながら、食材の買い物、調理の準備、片付け、洗い物等利用者個々の力を活かし、職員と一緒にやっている。同じテーブルを囲んで楽しく食事が出来る雰囲気づくりに努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの生活暦に応じた量を提供するとともに、体調の変化に注意しながら摂取量が少ないときは、代替品や栄養補助食品でまかなっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケア実践を声掛けするが、「いつもしてるから」と一部の利用者には実践出来ていない。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	身体状況を把握し、出来るだけオムツやリハビリパンツの使用が少なくなるよう、カンファレンスで話し合っている。	自立している利用者が多いですが、一人ひとりの身体状態に基づいて排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、ヨーグルトや野菜ジュース、牛乳を提供し自然排便を心がけている。すぐに下剤に頼るのではなく腹部マッサージやオムツの利用者には、トイレで排便が出来るよう介助している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日曜日を除き毎日入浴可能。夜間は障害者の利用者が仕事が終わってから入浴するので対応できないことがある。	利用者のその日の希望を確認し、午後の時間に入浴して頂いている。間隔の空く人には言葉かけや対応の工夫をし、職員も一緒に入ることにより、安心感を持って入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの安眠できる環境作りに努めている。室内の明るさや気温にも気を付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	落としてしまったり、飲み忘れがあるので職員が管理し、服薬を確認している。アリセプト等認知症の薬の説明はなかなか利用者に出来ない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意なこと、やりたいことを把握し、役割を持ち生活が送ることが出来るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば出来る限り外出している。ドライブの際には、行きたい場所をまず利用者に関き、出かけるようしている。	その時その時の状況に応じて、利用者の住んでいた周辺や季節ごとの観光に出かけたりする。日々の外出に関しては、希望があれば敷地内の庭や畑での散歩を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望がある方には小銭程度は持ってもらっている。しまい込んでしまい行方不明になることも多いので、大きなお金は事務所で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば家族に電話し取り次いでいる。友人から手紙が来たときには返信の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂には季節の花を飾るようにし、準備、後始末を利用者が行うこともある。	居間は日当たりが良く、自由に使用でき利用者がカーテンの調整をし、多くの利用者が終日利用している。利用者、職員と一緒に季節に合わせた飾り付けをしたり、習字、絵画の作品、行事の風景の写真が居間に飾られ家庭的な雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関や廊下等に椅子を置き、でも外の景色を眺めたり出来るような環境をつくっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物は持ち込み自由。写真や仏壇を置いている利用者もある。	居室は使い慣れた家具、仏壇、趣味の道具、家族の写真、人形などが持ち込まれ、落ち着いて温かい雰囲気づくりに努めている。寝具は畳・ベッドなど好みに設置でき、ドアに鍵がかけられ、安心して眠れる環境に努めている。	